



秋を探しに出掛けよう!!

# はぐ便り

2024年  
9月号  
【第114号】

## 発達障がいについて

発達障がいのある子は、他人との関係づくりやコミュニケーションを取ることが苦手です。一方、優れた能力が発揮される場合もあり、周囲から見ても理解されにくい障がいとも言われています。

発達障がいは、生まれつきの脳の特性によるもので、病気ではありませんし、親のしつけや本人のわがままでも起こるものでもありません。

発達障がいの子の多くは、幼稚園や小学校の集団の中に入ると、様々な困難に直面することがあります。例えば、次のような行動が見られる場合があります。

- じっとしていられず動き回る。
- 考えるよりも先に動く。
- 準備や片付けが苦手で、持ち物をなくしやすい。
- 読むことができてても書くことができない。
- 読み書きができてても計算ができない。
- 同じ事を何度も尋ねてしまったり、言いたい事を忘れてしまったりする。
- 相手が困ることを遠慮なく話してしまう。
- 運動の調整が苦手で、動きが乱暴に思われてしまう。



このようなことから、発達障がいのある子は、「困った子」と見られがちです。しかし、「一番困っているのは、一生懸命取り組んでもうまくできないこの子自身」なのです。

障がいが理解されず、周囲からの適切な支援がないと、学校に行くことがストレスとなり、不登校や引きこもりなどの二次障がいにつながる場合もあると言われています。発達障がいの人たちが個々の能力を伸ばし、社会の中で自立していくためには、私たち一人一人の理解と支援が必要です。



### 保護者は・・・

- 子どもに応じた接し方をして、困りごとを減らしてあげる。
  - 困った行動には、冷静に落ち着いて対応する。
  - できたことをほめる。できないことを叱らない。
  - 行動を促す時は、「おだやかに」「近くによって」「声のトーンをおとして」伝える。
  - 何度も繰り返して伝える。ただし、一度指示した後は、一度のその場から離れるなど、適度な間があるとよい。しつこく感じさせないように・・・
  - 「～しなさい」ではなく、「○にする?それとも△にする?」のように、選択させる声掛けを。
- 例)「自分で片付ける?」「お母さんと一緒に片付ける?」
- 病院等で診断を受ける。診断名はつかなくても、特性に応じた支援の仕方をアドバイスしてもらえます。

### 周囲の保護者は・・・

- 困っている保護者から相談されたら、「私にできることはありますか」と伝えることも立派な支援の一つです。
- また、「あの子は、いつも問題を起こして迷惑」と考えるのではなく、「この子は、何に困っているのだろう」「何かお手伝いできることはないだろうか」というスタンスが大切です。
- 周囲の保護者も見方を変えて、その子の特性を理解して温かく見守る姿勢で接することが何よりも重要です。周囲の人のこうした理解があるだけで、障がいのある子もその家族も楽になれます。

日焼け跡  
楽しい休みを  
思い出す



盛岡市家庭教育情報通信『はぐ便り』2024年9月号  
【第114号】令和6年9月17日発行  
発行者・問合せ：盛岡市教育委員会 生涯学習課  
住所：盛岡市津志田14-37-2 TEL:019-639-9046  
E-mail:edu.sgs@city.morioka.iwate.jp

